

# 皆様からJAに寄せられたご意見・ご要望

例年2月に開催していただきました座談会の開催につきまして、コロナ禍の収束が見通せないことから、各地区の支部長・営農組合長へご意見を仰ぎながら、中止といたしました。このため、組合員の皆様に座談会資料とご意見等の記入用紙を配付し、書面やインターネットを介してご回答いただきました。このたび集まりましたJAや地域農業に関するご意見・ご要望をお知らせいたします。多くの声をお寄せいただき、ありがとうございました。

※掲載内容については要約のうえ、重複するものを集約しておりますのでご了承ください。

**Q** この意見等が今後どのような扱いになっていくのか、教えてもらえるとありがたい。

**A** 皆様からいただいたご意見等は、理事会において報告し、協議した結果を今後の経営へ反映させてまいります。また、JAとしての回答とともに広報誌「大地」へ掲載いたします。ただし、誌面の都合上すべてのご意見等を掲載することは難しいことをご理解ください。

**Q** 高齢化や離農等により、支部役員を引き受ける人が少なくなってきたり、支部の運営が厳しくなってきたり。広報誌や通知等の配布も負担が大きくなってきている。

**A** 高齢化と離農により生産者が減少してきていることで、支部の活動も少なくなっている。支部組織は必要か。

**Q** 営農組合の活動が広報誌の配布のみとなってきたり、世代交代が進まない地区もあり、今後の活動が危惧される。また、活動費も減少してきている。

**A** 営農組合長会の今後の在り方は、どのように運営していくのか。

**A** JAにとって、支部・営農組織は大切な下部組織であります。しかしながら、時代の変化に合わせて組織の在り方などを見直しが必要になってきておりますので、機会をとらえて検討してまいります。

**Q** 生産者が減少していることから、座談会は必要なのか。開催等について協議してほしい。

**A** 座談会は、JA経営に関する重要事項や農業振興方針など、JAの考えについて組合員の皆様へ説明を行い、それに対するご意見を伺いながらJAの取り組みに反映させていく重要な目的があります。時代の変化をとらえながら方法を検討してまいります。

**Q** 「サキホコレ」が非常に注目され作付けしたいが、要件等のハードルもあり作付けが難しいところがある。

**A** 「サキホコレ」は秋田米を代表する米になると思うので、JAでも力を入れて活動してほしい。

**Q** 「サキホコレ」について、一般生産者はいつ頃から作付け可能になるのか。新品種への期待が高いうちに作付けを開始したい。

**A** 広報誌「大地」で「サキホコレ」の作付けができない地区が示されていた。その地区には「あきたこまち」等との価格差も含めた説明が必要なのではないか。「サキホコレ」を作付けした生産者との、収入面で不公平感が生じると思う。

**A** 秋田県では多様化する消費者ニーズやブランド米に十分に対応できる品種として、極良食味米「サキホコレ」を育成しました。優れた外観や食味の品種特性が発揮され、確かな品質を安定供給できることを目的とした要件や栽培基準であることを、ご理解ください。なお、作付け条件については変更ございませんので、ご理解願います。

**Q** 「サキホコレ」の県外における販売価格はどうか。また、今後の作付けはどうなっているのか。

**A** 先行販売として昨年11月にパッケージデザインを2キロ袋に統一し、消費者から手に取ってもらえることを意識して新潟県産コシヒカリ（一般米）以上を基準に価格設定いたしました。県外では知名度の低さから一部商品が値下げ販売され、今後知名度向上による販売の重要性を認識いたしました。令和4年産の作付けは県全体で624ヘクタール、3,200トンを見込んでおり、作付け者への指導が始まり、安定した品質の米を精算するために、地域、生産者、作り方を厳選して取り組めます。今後JAグループとして有機肥料を使用した特別栽培米による契約栽培を主流とした栽培を目指すかたちになります。

**Q** 米価下落に伴い、農業所得が厳しい状況だ。他の市町村では助成等の対応がされているが、管内の行政に対しても助成を促していただきたい。

**A** 令和3年産の米価下落は生産者の所得に大きく影響している状況にあります。当JAとしても令和4年産以降の営農継続に向けて次期作支援を令和4年1月に秋田市、男鹿市、潟上市に要望したところです。現在各行政で支援策が決定され、早い地区では3月中に実施される見込みとなっております。

**Q** 米の売り渡し価格が下がっているように見受けられるが、原因のひとつに食味があげられると思う。安定した価格で販売できる良質な米作りに向け、指導をお願いしたい。

**A** 食味を重視した米作りは、秋田米の評価向上と販売シエアの拡大につながります。土づくりを土台とした、あきたecoライスの取り組みや、食味や整粒歩合の向上に向けて取り組んでいます。

**Q** 今後の地区基盤整備、法人化等に伴い、営農指導はもとより、JA各方面のご指導をお願いしたい。

**A** 法人、担い手組織等の設立・運営を支援します。法人設立後も収支計画策定、栽培技術指導、資金対応などの支援を実施しております。

**Q** 「水田フル活用のもと水田活用米穀や畑作物等への誘導を図る」となっているが、米の作付け面積に制限があるなかで、畑作に適さない水田の活用についてどのような手立てや指導を考えているのか。

**A** 「水田フル活用のもと水田活用米穀や畑作物等への誘導を図る」となっているが、米の作付け面積に制限があるなかで、畑作に適さない水田の活用についてどのような手立てや指導を考えているのか。

